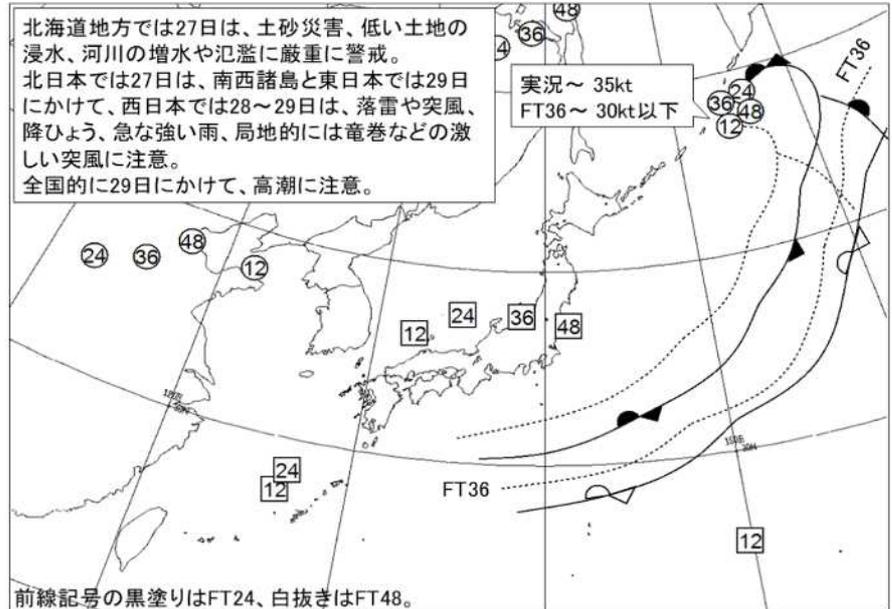


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5580m付近の寒冷渦がオホーツク海を、500hPa 5700m付近で-12℃以下の寒気を伴うトラフが北海道付近をそれぞれ南東進。北海道地方では対流雲の発達が続ぎ、記録的短時間大雨情報や竜巻注意情報を発表。
- ② 5760m付近のトラフに対応する低気圧が千島近海を北東進し、前線が日本の東や伊豆諸島付近を通過して四国の南にのびている。
- ③ 南鳥島近海に中心を持つ高気圧が、日本の南に張り出している。南西諸島～東日本を中心に、晴れて気温が上がり、西～東日本では猛暑日となっている所がある。
- ④ 300hPaで-30℃以下の寒気を伴う寒冷渦が台湾付近を西進。また、低圧部がフィリピンの東に停滞。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは27日夜にかけて北日本を通過し寒冷渦が千島近海へ進む。上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。北海道地方では27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に嚴重に警戒。北日本では27日は、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の低気圧は、2項①の寒冷渦に対応して27日夜までに閉塞し、前線が日本の東～日本の南にのびる。前線はその後29日にかけて小笠原近海へ南下して停滞。前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。小笠原諸島では28～29日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 27日夜までに日本海と東シナ海に高気圧が発生し、29日にかけて日本付近を覆う。日本付近では、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラートを参照）。高気圧圏内で空気が乾燥するため対流雲の発達は抑制されるが、日中の昇温により午後を中心に大気の状態が不安定となり、局地的には対流雲が発達し大雨となる所がある。東日本では27日と29日は、西日本では28～29日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 1項④の低圧部は、29日にかけてフィリピンの東に停滞。低圧部と2項③の高気圧との間では下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定。南西諸島では29日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。全国的に、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。